

平成 29 年 1 月 24 日

広島市立大学COC+平成28年度事業の実施状況

1 平成 28 年度事業の概要

区 分	事 業	内 容
教育カリキュラムの整備・推進	① 教育カリキュラムの実施 ② 単位互換制度の検討 ③ 全学COC+研修会 ④ COC+フォーラムの開催 ⑤ 企業等へのインターンシップの促進	●地域貢献特定プログラム科目の開講と 29 年度開講講座の準備を行った ●29 年度からの実施に向け調整した ●全教職員への研修を 2 回実施 ●事業協働地域に呼びかけ 1 回開催 ●地域の企業・自治体へのインターンシップを進めた
観光関連データベースの構築と活用	① データの収集と運用	●各種データの登録を進めながら、試験的な運用を行った
教育研究事業の推進	① 宮島への教育研究拠点の開設 ② 基町の教育研究拠点での活動 ③ アートプロジェクトの実施 ④ 参加校による協働研究事業の実施 ⑤ COC+特定研究等の開始	●廿日市市宮島の歴史ある町家を活用し拠点施設として開設・運用した ●広島市中区基町の拠点施設「M98」においてコミュニティデザイン活動を進めた ●宮島、広島市中心部において本学芸術学部を中心とした芸術活動を実施した ●参加校と連携・協力し、地域での教育研究事業を実施した ●本学の学内特定研究にCOC+枠等を新設し研究を開始した
事業運営	① 推進組織の運営等 ② ニュースレターの発行 ③ ホームページの開設	●COC+推進組織を運営し、人員を確保した ●3 回発行 ●専用ホームページを新設し情報を発信した

2 教育カリキュラムの整備・推進

(1) 教育カリキュラムの実施

本COC+の教育カリキュラムである地域貢献特定プログラムは、地域志向型科目として「広島を知る」「広島を感じる」「広島を問う」「広島に挑戦する」という4つのステップを、全学共通系科目や専門教育科目において学習・経験できるように編成している。

平成28年度は、新たに設定した広島科目の講義（新規授業科目の「広島の観光学」、及び「ひろしま論」「広島の産業と技術」の既存授業科目を一部見直し）を開講するとともに、平成29年度から新規に開講する科目（「地域課題演習」「地域再生論入門」など）の準備を行った。

また、地域貢献特定プログラムの拡充についての検討を行った。

【地域貢献特定プログラム科目編成】

科目区分		科目名	単位数	年次・学期	履修人数※
全学共通系科目	総合科目	[新]地域再生論入門	2	1・2年・29年度前期～	
		創作と人間	2	1・2年・前期	125
		NPO論	2	1・2年・前期	32
	広島科目	[新]広島の観光学	2	1・2年・28年度後期～	56
		ひろしま論	2	1・2年・後期	232
		広島の産業と技術	2	1・2年・後期	282
		[新]地域課題演習	1	2年次・29年度通年～	
国際学部 専門教育科目	公共政策・NPO プログラム	[新]地域再生論	2	2・3年・29年度後期～	
	専門演習	[新]専門演習Ⅰ（地域実践演習）	1	3年・30年度前期～	
		[新]専門演習Ⅱ（地域実践演習）	1	3年・30年度後期～	
情報科学部 専門教育科目	専門基礎科目・ 専門科目 (学部共通科目)	[新]観光情報学	2	2・3年・29年度前期～	
		[新]地域実践演習	1	3年次・30年度～	
芸術学部 専門教育科目	専門基礎科 目	アートマネジメント概論	2	2年・後期	—
		[新]地域実践演習	1	3年次・30年度～	

28年度実施講座

[新]28年度入学生対象の新規科目

※履修人数は28年度入学生の履修者数

【平成28年度開講「広島の観光学」の内容】

事業協働地域25市町のすべてに調査訪問を行い、地域の最新の状況（観光動向、施策、活動、資源等）についてリサーチした内容を盛り込んだ講義構成とした。



「広島観光学」の内容

25市町の観光を、「海の文化観光」「森の文化観光」「都市の文化観光」という3つの括りで捉え、地域資源の魅力、地域の工夫、観光を支える仕組み等を習得する。

① イントロダクション

[海の文化観光] ②世界遺産・厳島神社と宮島、③港町の形成と町並み創出、④欧州の海浜リゾート都市に学ぶ、⑤「海辺空間」の魅力、⑥海の体験型修学旅行、⑦戦争遺産と平和を考える、⑧瀬戸内海を世界に売り出す

[森の文化観光] ⑨森の癒しのプログラム、⑩森の体験観光、⑪民俗芸能の観光化、⑫農村環境の観光化

[都市の文化観光] ⑬水辺のオープンカフェ、⑭MICEによる集客、⑮伝統文化と観光

【平成29年度開講「地域課題演習」の準備】

本学においてはじめて実施する地域を学習フィールドとする学部横断的な演習となる。このため、学内のCOC+教育プログラム専門委員会やカリキュラム編成ワーキンググループでの協議を重ね、実施方法を検討した。

この地域の多彩な魅力や資源、取組などについて、学生が現地での知見や考察を深めることで地域の特性や課題を理解し、地域志向のマインドを育てることを基本方針とし、シラバス案の作成や、演習テーマ(10テーマ)と候補地域の検討、指導体制(20名の演習担当・副担当教員)等の準備を行った。

【平成29年度開講「地域再生論入門」の準備】

地域再生の動向と地域の熱意を学生に伝えることで、事業対象地域で活動する人材育成に資する講義構成とする。このため、①人口減少社会の中でも地域における様々な取組により地域再生がなされていることを理解させ、②持続性のある地域再生のため、コンパクトでネットワークのある地域づくりや地域資源を活かした産業振興、都市・中山間地域間の交流の大切さを学ばせる内容について検討した。

この講義で地域の優れた実例を紹介するため、広島広域都市圏連絡会(平成28年10月21日開催)において情報の提供を依頼し、情報に基づき追加調査を行った。

(2) 単位互換制度の検討

参加校における連携と交流を進めることでCOC+教育プログラムのカリキュラムの充実を図ることを目的として、参加校間での単位互換制度を設ける。

【単位互換の内容】

COC+事業に参加する各校が提供する地域志向型科目を、事業参加校の学生が単位互換生として履修し、科目提供大学における成績をもとに、学生の所属大学において単位認定する。

単位互換科目は、学生の受講の利便性を考慮し、

- ① 遠隔講義システムの使用が可能な科目や②集中講義形式での実施が可能な科目を中心とする。

(遠隔講義システムの使用については、実施環境・体制の整った大学間で試行的に開始し、順次拡大を目指す。)

実施にあたっては、参加校による単位互換に関する協定を締結する。



【今後の予定】

現在、参加校間で協定書の締結手続きを行っており、今後、3月までに提供科目の選定や遠隔講義システムの送受信調整、シラバス・募集要項等の準備を行い、平成29年4月からの単位互換の開始を目指す。

(3) 全学COC+研修会

全学研修会の開催により、学内でのCOC+推進への理解促進や気運の醸成を図った。

【平成28年度第1回開催内容】


日 時	平成28年10月26日(水) 16:20~17:50
会 場	講堂(小ホール)
対 象	全教職員
内 容	<p>① 講師：広島市企画調整部 阪谷幸春部長 テーマ「200万人広島都市圏構想の実現に向けて」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島広域都市圏の人口動態等 ・200万人広島都市圏構想 ・広域全体(都市圏)としての取組 ・広域拠点(中心都市)としての取組 ・構想の実現に向けて ・COC+を進めるに当たって <p>② 報告：國本善平(社会連携センター 特任教授) テーマ「COC+の実施状況について」</p>
参加人数	98名

【平成28年度第2回開催予定】

- ・日 時 平成28年3月6日(月) 14:40~16:10
- ・講 師 広島修道大学ひろしま未来協創センター次長・人間環境学部教授 三浦浩之氏
- ・講演テーマ 「大学が地域といかに関わるか
 -広島修道大学の地域志向教育プログラムの実践から」

(4) COC+フォーラムの開催

【COC+フォーラム 2017 の内容】

日 時	平成29年1月24日（火）15：00～17：00
会 場	広島国際会議場
テーマ	「つながれば始まる」 変革へのチャレンジ。若者の地域志向マインドを育てる。 これからの地域デザインのあり方。
内 容	<p>① 講師：NPO法人グリーンバレー理事長 大南信也氏</p>  <p>テーマ 「神山発！日本の田舎をステキに変える一人が人を呼ぶ地域資源の活かし方」</p> <p>② 報告：広島市立大学芸術学部 中村圭講師 テーマ「基町プロジェクト —創造的な文化芸術で地域活性化を目指す」</p>
参加定員	140名

(5) 企業等へのインターンシップの促進

本学のインターンシップの状況（参加学生数）

区分	平成27年度	平成28年度
企業等インターンシップ	42名	62名
広島市有給長期 インターンシップ	5名	3名
広島県インターンシップ 促進協議会	2名	1名
その他のインターンシップ	6名	3名
合計	55名	69名

※協働地域外も含む。 ※リクナビ等のサイトから学生が応募したものは含まれていない。

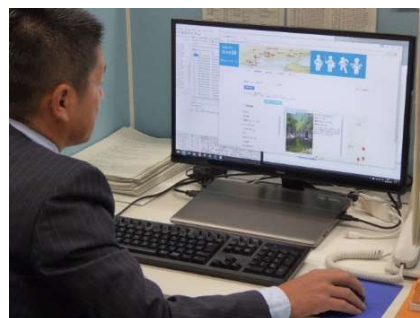
3 観光関連データベースの構築と活用

(1) データの収集と運用

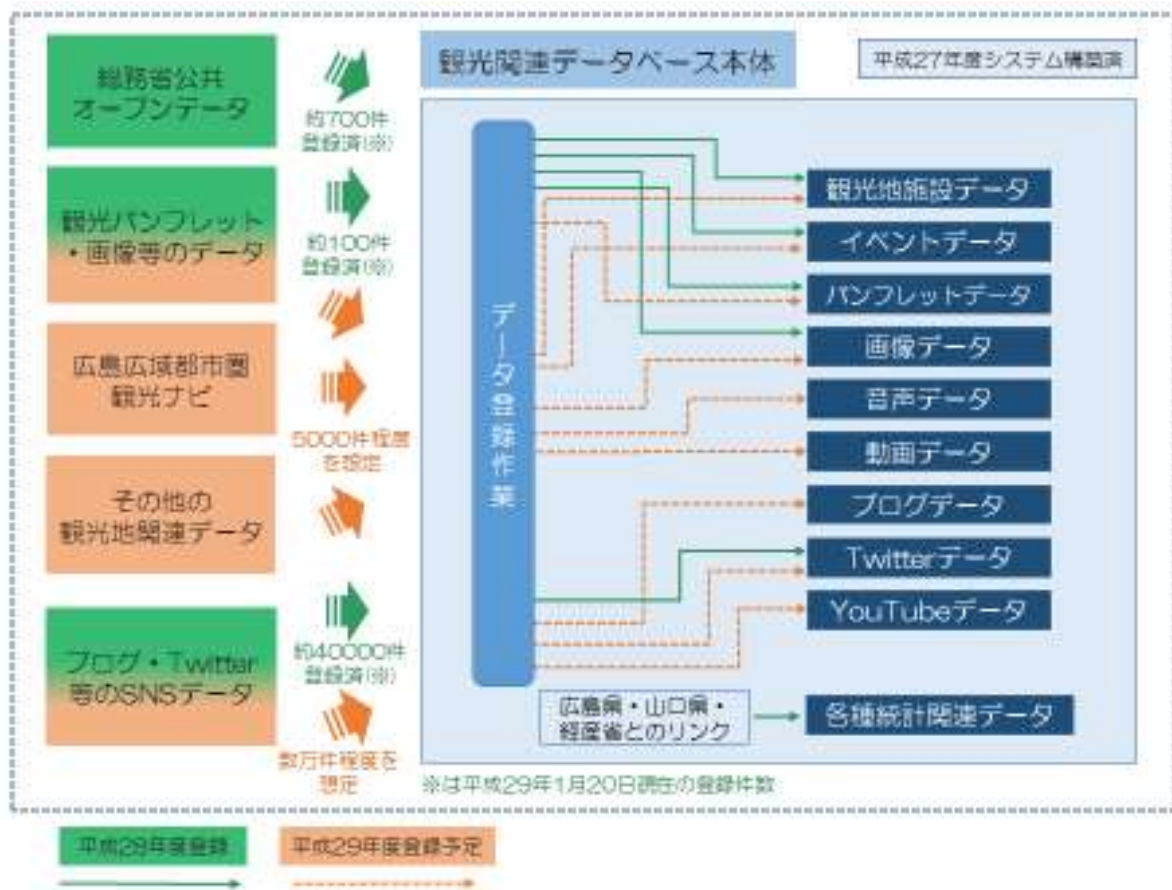
事業協働地域内における観光施設や観光資源、観光振興の事例、SNS データ等を集積した「観光関連データベース」の構築を進めている。

構築したデータベースについては教育研究の素材として「観光情報学」「地域課題演習」や「地域実践演習」卒業論文・研究等において活用する。さらには、各大学、自治体、企業等においても活用していただくことを想定しており、観光情報を共有することにより地域内での新たな事業や活動が生まれることも期待される。

平成 27 年度にデータベース本体の基本システムを作成し、平成 28 年度からはトライアル版による学内でのテスト運用を行いながら、各種データの登録作業を進めている。今後、セキュリティを含めた運用方法等について調整を行い、平成 29 年度には関係機関の方々にも閲覧をしていただけるよう準備を進める。



【観光関連データベースの進捗状況】

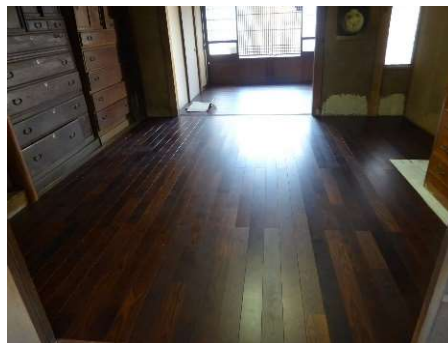
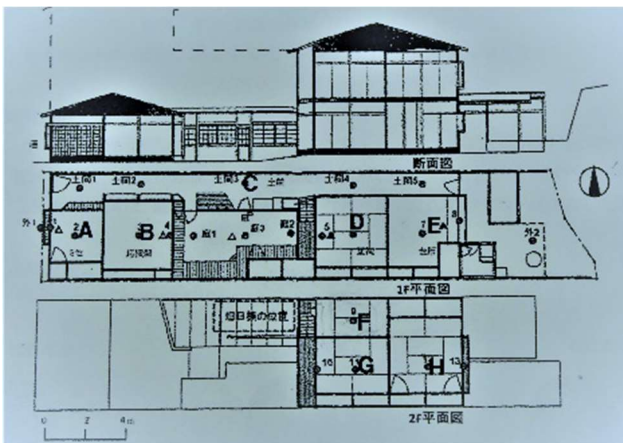


4 教育研究事業の推進

(1) 宮島への教育研究拠点の開設

本学とCOC+参加校の教職員・学生が宮島において教育研究の場として利用できる施設を、平成28年10月1日から、借り受けにより開設した。

名称	広島市立大学COC+宮島教育研究施設 (通称：サテライトハウス宮島)
所在地	廿日市市宮島町 672 番地 旧「因幡邸」
開設期間	平成 28 年 10 月 1 日から平成 32 年 3 月 31 日まで (COC+の事業期間を予定)
施設概要	宮島における貴重な町家のひとつ。木造切妻造り(一部2階建て)の京都型町家建築で通り土間、坪庭を有す。 床張り等の一部補修を行った。
活用内容	宮島をテーマにした作品制作や展示、講座・セミナーの開催、フィールドワークの拠点としての活用等を想定。 (利用者：本学及びCOC+参加校の教職員・学生)



(2) 基町の教育研究拠点での活動

本学が広島市中区役所と協働して設けた教育研究活動拠点「M98」において地域活動を進めている。学生が主体となった創造的な文化芸術活動や地域交流を通じた、まちの魅力づくりや地区の活性化(コミュニティデザイン)に、平成26年度から取り組み、昨年度からCOC+の事業としても実施している。



ここでの活動は、中区役所からの受託研究をベースとしており、高齢化などの地域課題に対して、教員、学生が地域住民の皆さんと一緒に話し合いながら様々なプロジェクトを進めている。「M98」を拠点としながら、平成28年度において、近隣に「M98 <make>」「M98 <eat>」の2つの活動スペースを整備した。COC+の教育プログラムにより、参加校の広島修道大とは「もとまちカフェ」を、安田女子大学とは「グローバルキッチンプロジェクト」についてコラボレーションし、学生同士が交流しながら取り組んでいる。

【基町プロジェクトの概要】

目的	若者が主体となった創造的な文化芸術活動や地域交流を通じた、まちの魅力づくりや基町住宅地区の活性化を進める。
事業者	広島市中区役所・広島市立大学（広島市立大学が研究受託）
経緯	地域の高齢化等の課題に対応するため、平成26年度からプロジェクトを開始。平成27年度からCOC+の一環としても取り組んでいる。
活動施設	教育研究活動拠点「M98」（オフィス） 平成28年度に「M98 <make>」（工房）、「M98 <eat>」（キッチン）を整備 （いずれも空き店舗をリノベーション）
主な活動内容	もとまちカフェ（人的交流で地域内外を繋ぐ 広島修道大学と協働） グローバルキッチンプロジェクト（食文化によるワークショップや交流 安田女子大学と協働） Mトーク（住民との語りの会やレクチャー） もとまち・アートウィンドウ（ショーウィンドウをアート感覚で展示する） 創造・交流拠点づくり（空き店舗を工房とキッチンにリノベーション） 基町、昔の写真展（写真を軸に歴史トークや地区内ツアーを実施） シンポジウムの開催 など



(3) アートプロジェクトの実施

アートプロジェクトとして、廿日市市宮島及び広島市中心部での活動を実施するとともに、平成 29 年度の実施に向けて、北広島町大朝（筏津芸術村で彫刻等の創作活動）、安芸太田町加計（製鉄文化をテーマにした作品制作）、尾道市（尾道市立大学との協働による空き家再生プロジェクト等）のプロジェクトを調査・検討した。

エリア	プロジェクト	内容
廿日市市 宮島	古民家リノベーション	宮島の町家をリノベーションし、作品展示やレクチャースペースを整備（広島市立大学 COC+宮島教育研究施設として開設）
	版画を用いた宮島観光マップ（宮島双六）の制作と研究	宮島の歴史や伝統文化、地域特性をテーマに魅力資源のリサーチと木版画ワークショップの開催
	宮島ものづくり産業復興プロジェクト	宮島轆轤の技術の継承、宮島の伝統産業のリサーチ、轆轤道具と材料の研究
	宮島アーカイブプロジェクト	宮島彫り等の伝統産業に関わる職人の技術や歴史等をテーマにしたアーカイブ映像制作と写真記録
	日本画宮島プロジェクト	宮島をテーマとした日本画の創作のための現地調査と企画
	染織宮島プロジェクト	宮島をテーマとした染織工芸による創作のための現地調査と企画
広島市 中心部	基町プロジェクト （コミュニティの再生を目指す地域デザイン活動）	<ul style="list-style-type: none"> ・広島修道大学との協働による「もとまちカフェ」の実施 ・創作スタジオ「M98<make>」を設置し、未来の基町を考える模型を制作 ・基町の歴史や魅力を紹介する「基町写真展 2」を開催 ・シンポジウム「広島基町高層アパートと大高正人」の開催（文化庁共催） ・キッチンスタジオ「M98<eat>」を設置し、グローバルキッチンプロジェクトを月1回開催（安田女子大学との協働）
	観光船と水辺のデザインプロジェクト	新規観光船のデザイン提案や河岸でのイベントの活性化



(4) 参加校による協働研究事業の実施

COC+参加校が協働で(または単独で)、地域志向の教育研究プログラムを次のとおり実施した。

校名	事業名(またはテーマ)
広島大学	大型クルーズ客船の寄港への対応と地域経済への影響について
尾道市立大学	尾道市技「囲碁」関連科目の創設事業
広島経済大学	学生による宮島観光資源の再発見と発信
広島工業大学	広島工業大学地域環境宮島学習センター等における「宮島・土曜講座」
広島国際大学	中山間地域と島しょ部間の交流による地域活性化プロジェクト
広島修道大学	基町プロジェクト「もとまちカフェ」への参画
安田女子大学	基町プロジェクト「グローバルキッチンプロジェクト」への参画
広島商船高等専門学校	地域の野草を活用した地方創生(シンポジウムと野草観察会)

(6) COC+特定研究等の開始

学内の競争的研究資金として、新たにCOC+研究費を設けるとともに、社会連携プロジェクトにCOC+関連事業経費を追加。学内公募を行い、次の8つの研究テーマが採択された。

区分	研究テーマ
COC+研究費	COC+事業における先導的アートプロジェクトの実施と人材育成のための基盤研究
	瀬戸内の観光振興と外国人観光客のインバウンドを目指した地域活性化プロジェクト
	広島における体験型スポットの自動検出
社会連携プロジェクト費 COC+関連	広島広域都市圏の鳥瞰図の制作
	グローバルキッチンプロジェクト
	宮島でのテーマ制作と展覧会
	基町での学生と共に行う地域の歴史デジタルアーカイブ化研究
	厳島八景に関する教育事業

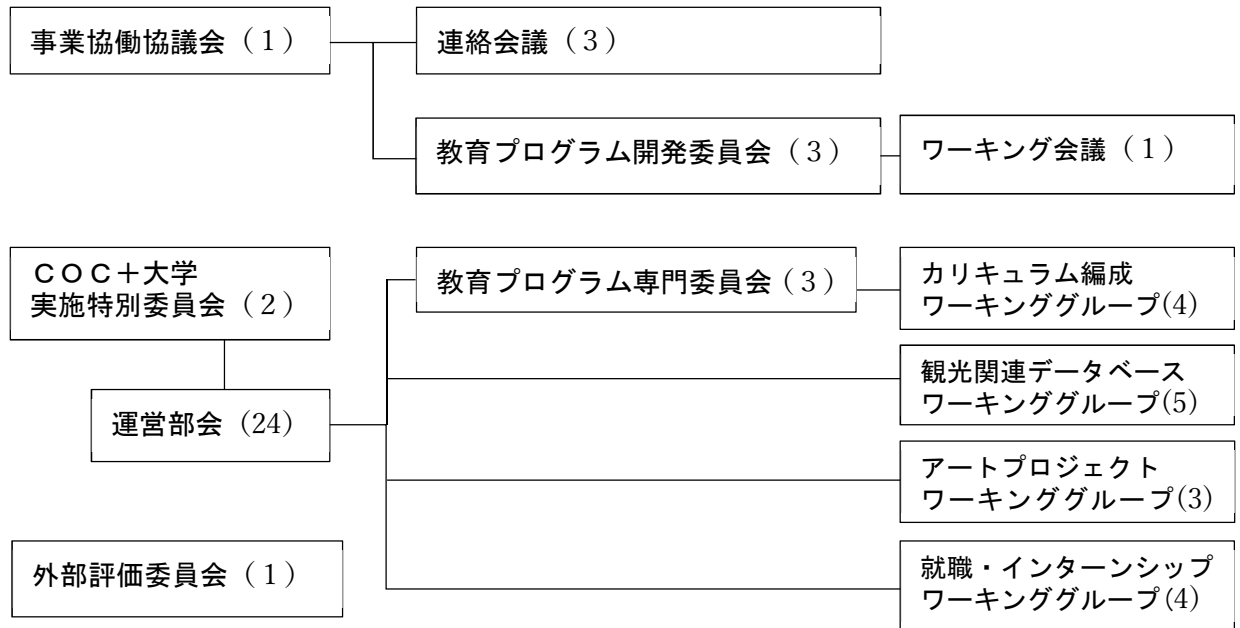
5 事業運営

(1) 推進組織の運営等

COC+事業協働協議会及びCOC+大学内の推進組織の運営状況は次のとおり。

また、事業を推進する担当教員を平成28年4月に3名、8月に1名雇用し、全体で6名の体制とした。

【COC+推進組織の運営状況】 ()は開催回数



(2) ニュースレターの発行

第3号	平成28年7月発行	COC+ホームページの紹介、観光施策の動向調査等
第4号	平成29年1月発行	基町プロジェクト、観光関連データベース、宮島拠点施設
第5号	平成29年3月発行予定	地域課題演習の履修促進等

(3) ホームページの開設

ホームページの構成デザインやコンテンツを調整し、平成28年6月21日から公開を開始した。

